

## 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」に係るイコモス中間報告のポイント

- 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」には潜在的に顕著な普遍的価値（OUV）があると考えられる。
- しかし、個別の構成資産がそれぞれ全体としての価値に貢献していることの根拠や、世界遺産の評価基準を満たしていることの証明が十分ではなく、さらにコミュニティの参加による資産の管理システム、危機管理、将来的な来訪者管理に関連しても課題があると考ええる。
- イコモスとしては日本におけるキリスト教コミュニティの特殊性は、2世紀以上にわたる禁教の歴史にあるという印象を受けており、それは禁教期に見出せると考える。
- 従って禁教の歴史的文脈に焦点を当てた形で、推薦内容を見直すべきである。
- 近い将来に速やかに前向きな成果を達成するためには、イコモスによるアドバイザー・ミッション派遣の可能性を含め、推薦国とイコモスとの対話を開始することが考えられる。
- ただし、『作業指針』の規定により、推薦国が推薦を取り下げない限り、第40回世界遺産委員会（28年7月）が終わるまでイコモスは助言を開始することができないことを留意されたい。
- 速やかな再推薦がなされ、良い結果（successful outcome）が得られるよう、イコモスは助言と支援を行う用意がある。